

秘密鍵のエクスポート手順

秘密鍵のエクスポートは何回でも行うことができます。エクスポートするたびにパスワードを変更することができます。

秘密鍵のファイルは

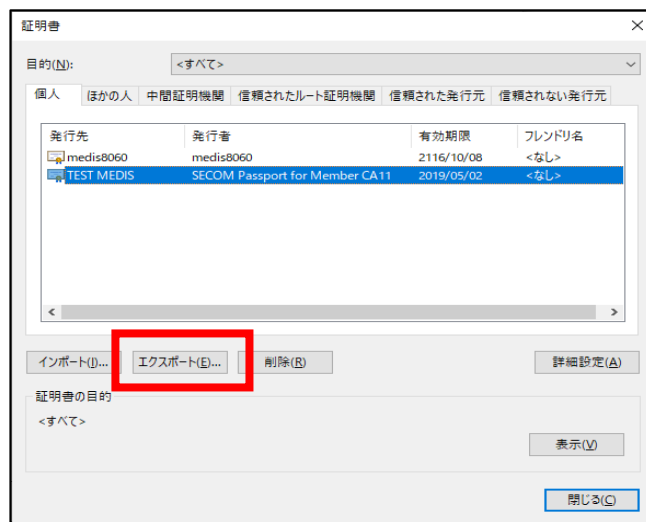
- ◆ 法人代表者証明書の場合・・・EDI ツールへの設定、または R3 署名・暗号化ツールへの設定に必要なファイル
- ◆ 個人証明書の場合・・・申請電子データシステム（ゲートウェイシステム）を利用するパソコンにインポートするために必要なファイル

1. 「個人」タブに表示されている一覧の中から、エクスポートする証明書を選択して「エクスポート」をクリックします。

下記画面の表示の手順は、

「電子証明書の確認手順（MicrosoftEdge 又は GoogleChrome）」

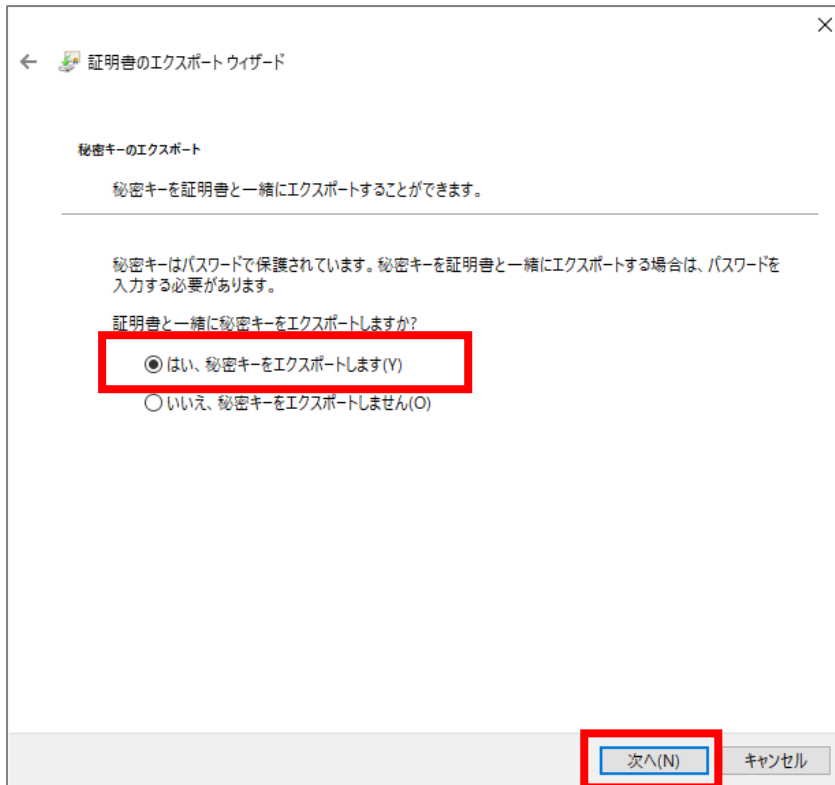
https://www.medis.or.jp/6_pki/manual.html を参照してください。



2. 証明書のエクスポートウィザードが表示されたら、「次へ」をクリックします。



3. 証明書のエクスポートウィザードが表示されたら、「はい、秘密キーをエクスポートします」を選択して、「次へ」をクリックします。



4. 「Personal Information Exchange-PKCS #12(.pfx)」を選択し、「証明のパスにある証明書を可能であればすべて含む」と「すべての拡張プロパティをエクスポートする」にチェックを入れて「次へ」をクリックします。

※「正しくエクスポートされたときは秘密キーを削除する」にはチェックを入れないでください。



5. パスワードにチェックを入れて、任意のパスワードを入力してください。パスワードの確認の欄にも同じパスワードを入力します。
ここで入力したパスワードは忘れないようにしてください。 忘れてしまうと、エクスポートした証明書が使用できなくなります。
(その下にある「暗号化」は、そのまま結構です)

← 証明書のエクスポートウィザード

セキュリティ
セキュリティを維持するために、セキュリティプリシパルで秘密キーを保護するかパスワードを使用しなければなりません。

グループまたはユーザー名 (推奨)(G)

追加(A)

削除(R)

パスワード(P):
●●●●●●●●

パスワードの確認(C):
●●●●●●●●

暗号化: TripleDES-SHA1

次へ(N) キャンセル

パスワードの文字制限はありませんが、法人代表者の証明書で署名暗号化ツールを使用する場合は8文字以上にすることを推奨しています。

6. 参照ボタンをクリックして、任意の保存先とファイル名を指定してください。

← 証明書のエクスポートウィザード

エクスポートするファイル
エクスポートするファイルの名前を入力してください

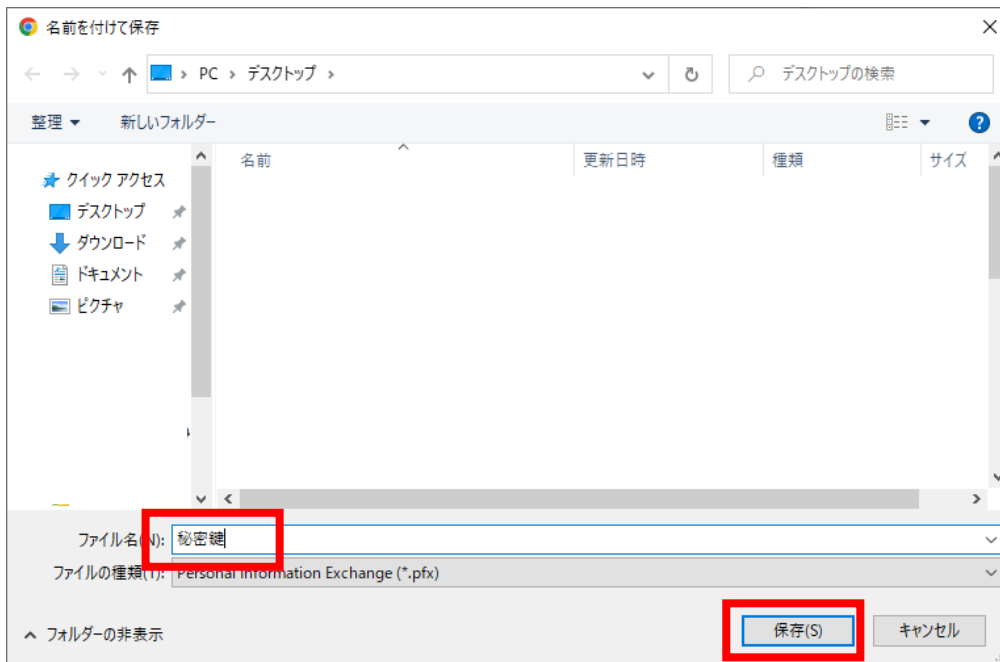
ファイル名(F):
|

参照(R)...

次へ(N) キャンセル

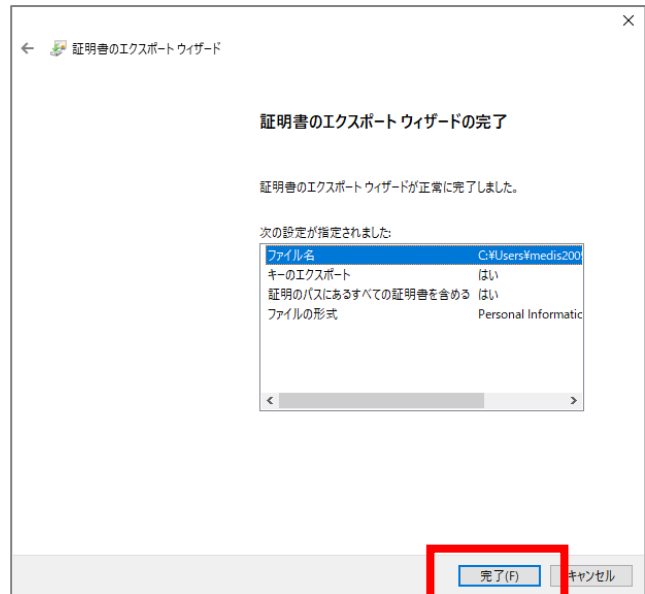
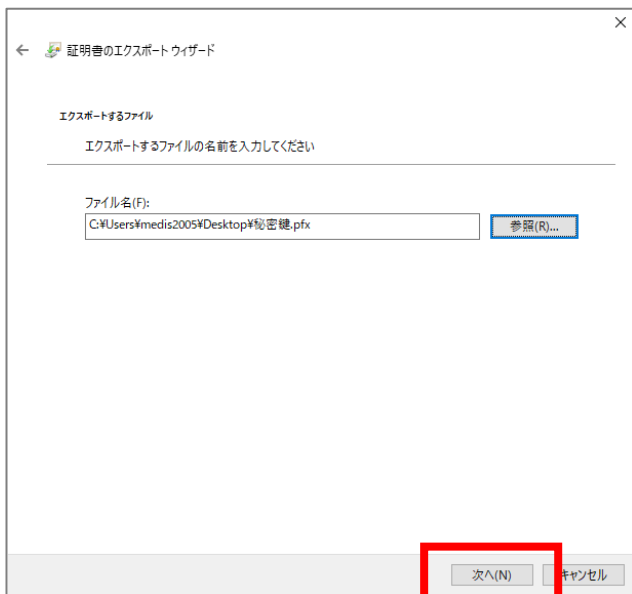
7. 保存先とファイル名を入れて「保存」をクリックします。

下図は、保存先：デスクトップ ファイル名：秘密鍵 とした例です



8. ファイル名に指定した保存先とファイル名が表示されていることを確認して「次へ」をクリックします。

9. 「完了」をクリックして、「正しくエクスポートされました」の表示画面で「OK」をクリックします。

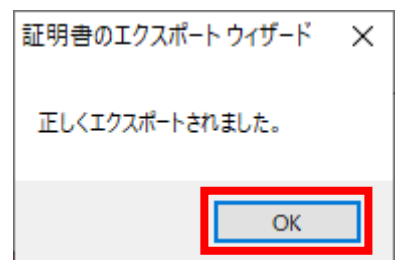


指定した場所にファイルが保存されていることを確認してください。

ファイル名の後につく拡張子は『.pfx』になります。

秘密鍵のファイルは右記のアイコンで表示されます。ファイル容量は 3KB 程度です。

このファイルをバックアップファイルとして保存する場合は、エクスポート時のパスワードとともに保管してください。



法人代表者証明書について

秘密鍵の拡張子が『.pfx』でも署名暗号化ツールの設定には支障ありません